

静岡文化芸術大学 創立10周年記念事業
外国人市民の社会参加と多文化共生のまちづくり

多文化共生分野の地域貢献に向けて ～シンポジウムの趣旨説明～

2011年1月29日(土)@静岡文化芸術大学
静岡文化芸術大学 文化政策学部
国際文化学科 池上 重弘
ikegami@suac.ac.jp

1

静岡文化芸術大学と多文化共生

- これまでも多文化共生をめぐる研究・教育
 - 学内の特別研究費や受託研究等
- とくに、大規模な実態調査
 - 2006年度 浜松市南米系外国人実態調査
 - 2007年度、2009年度 静岡県外国人実態調査
 - 2009年度 浜松市外国人メンタルヘルス調査
- 地域の行政・市民団体との連携
 - 静岡県、浜松市、磐田市、掛川市、湖西市等
 - NPO協働推進フォーラム(静岡県西部)等

2

2010年4月に公立大学化

- 中期目標、中期計画を策定
 - 2010年度から6年間の到達目標と実施計画
- それにもとづく年度計画
 - 当面は、2010年度、2011年度、2012年度以降
 - その中で、「重点目標研究領域」を3つ設定

3

重点目標研究領域

- とくに地域社会の発展に貢献できる研究領域
- 全学あるいは学部として組織的・戦略的に推進
- 3つの領域

多文化共生

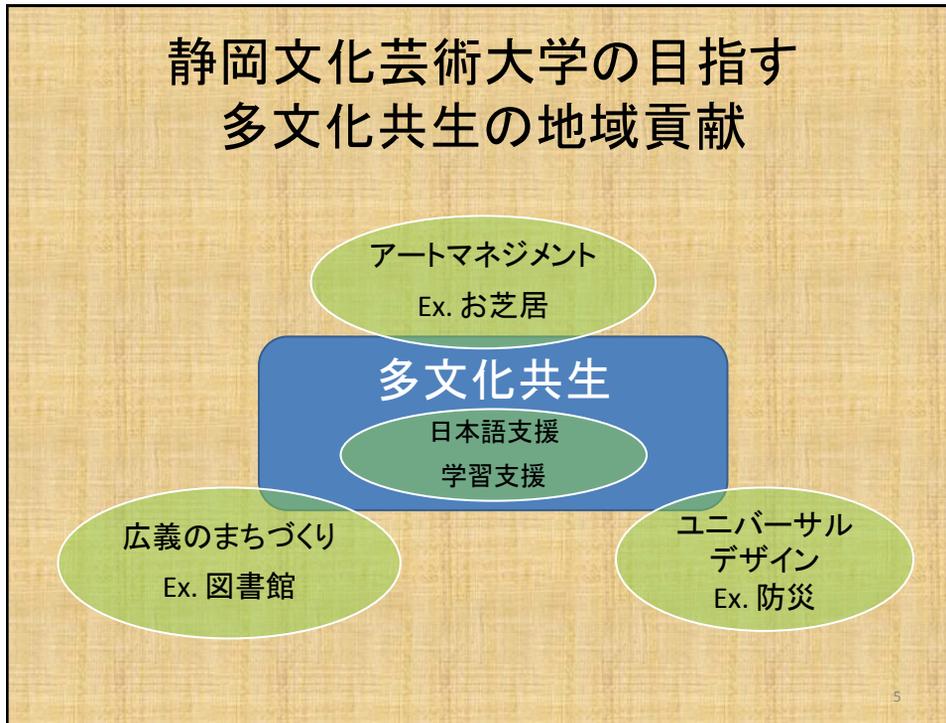
ユニバーサルデザイン

アートマネジメント

多文化共生を含む
地域社会発展に向
けての文化政策

4

静岡文化芸術大学の目指す 多文化共生の地域貢献



本研究プロジェクトの目的と柱

- 目的
 - 静岡県における重要な政策課題である多文化共生をめぐり、
 - 外国人市民の社会的自立と社会参加に不可欠な公用語(日本語)習得と、
 - 必ずしも言語を介さない形の自己表現による社会参加の可能性に焦点をあて、
 - 多文化共生社会が向かうべき方向性を明示する。
- 具体的には、
 - 日本語習得環境整備に向けて本学が果たしうる役割を検討
 - 演劇や音楽等の文化活動を通じた社会参加支援や相互交流の方策を探る

本研究プロジェクトの目的と柱

- 4つの柱
 - ①ポルトガル語討論会によるブラジルコミュニティからのニーズの吸い上げ
 - ②県西部での事例研究とヒアリング
 - ③国内先進事例の調査や学会等での情報収集と意見交換
 - ④ドイツにおける先進事例の調査

今日のシンポジウムは、

- ・①、③、④の報告であると同時に、
- ・ゲストの基調講演を踏まえた②のヒアリングの機会。

多文化共生の地域拠点として

- ドイツの社会文化センターに学ぶ
 - 1970年代の「社会文化運動」
 - ・ 現実の社会問題と結びついた文化運動
 - 地域型の社会文化センターで活動を展開
 - ・ 多様性の理念
 - ・ あらゆる社会層、年齢層のコミュニケーション
 - ・ 古い工場などを改築利用
 - ・ 次第に意義が認められ公的助成を受ける
 - ・ 市民主導の非営利法人の活動

多文化共生の地域拠点として

- ハンブルクの「モッテ (Motte)」の事例

- タバコ工場、チョコレート工場を改築

- 児童部門、
 - 青少年部門、
 - 文化イベント部門、
 - ワークショップ部門、
 - プロジェクト部門等



- 工房実習

- 多文化共生と社会教育の側面
 - 地域の人材も活動に参加



9

多文化共生の地域拠点として



本日のシンポジウムの流れ

基調講演

- 韓国の“多文化状況”(山本)
- 多文化な視点が拓く地域社会(吉富)

研究報告

- ブラジル人コミュニティの現状(イシカワ)
- 日本語支援システムの構築(広瀬)

討論

- 本学のさらなる地域貢献に向けて
- 地域の皆さんと意見交換

交流会もあります

11

文献

- 石井山竜平.2006.「指定管理者制度における官民関係の特質と課題」『月刊社会教育』50(8):5-12.
- 石倉祐志.2001.「市民が創る非商業的な文化の試みー社会文化センター“モッテ”とアルトナ祭」『社会運動』261:62-66.
- 重本直利・谷和明.2000.「ドイツにおける社会文化および社会文化センターに関する総合研究序説」『国際社会文化研究所紀要』(龍谷大学)3:247-269.
- 藤野一夫.2003.「ハンブルクの文化環境からみた『文化エコロジー』の可能性」『文化経済学』3(4):95-101.

12